

苦痛なきため放置せり。然るに1ヶ月前より右肩胛關節部のマッサージを受けてゐた際に急に疼痛起り、脱臼といはれ治療を受けてゐたが軽快せず該關節の運動不能となり、レ線検査を勧告され昭和17年5月27日當科受診。

- 現 症 體格中等度、榮養稍不良、顔貌苦悶狀を呈し、皮膚は光澤を失ひ、四肢に筋萎縮及運動障礙を認め腰部より右大腿部につる様な異常感あり、左乳房内に(7.5×6.5cm)軟骨様硬度、表面粗造なる腫瘍を觸知し、右上膊の稍中央腫脹し、壓痛はげしく骨折端をふれ、肩胛關節運動全く障礙さる。レ線検査により兩側上膊骨、肋骨、第6胸椎以下腰椎迄、腸骨、坐骨及左右大腿骨に侵蝕影を認む。
- 經 過 疼痛はげしく對症的に鎮痛劑投與のみにて全身衰弱の爲め、入院35日目に不幸なる死の轉歸をとれり。

第二日之部

17. 人副腎髓質内神經細胞の細胞學的研究

東京女子醫學專門學校解剖學教室

圓 乘 幸

副腎髓質に神經細胞の存在するは周知の事實なりと雖も、その詳細なる細胞學的研究は極めて少ない。私は人副腎の細胞學的研究の一部として、健康なる刑房5體より採取せる極めて新鮮なる副腎に於て、本研究を試みた。神經細胞は髓質内に個々に、或は集團を作つて存在し、其の位置は不定である。神經細胞は多極性にして圓形なる核は常に偏在する。二核を有する細胞も稀に認めらる。多くの細胞はリポフスチン顆粒を含む。該色素顆粒はオスミウム酸にて褐色に染色すると同時に、鐵ヘマトキシリン又はフクシに依つて一部染色す。ニッスル氏物質は、一般末梢性交感神經細胞に於けると同様定型的なる虎斑を形成せず。その分布狀態より本細胞を分類すれば、

1. ニッスル氏物質が細胞内に瀰漫性に分布するもの。
2. ニッスル氏物質が特に細胞周邊部に集り所謂邊緣輪を作るもの。
3. ニッスル氏物質が特に核周圍に集り、所謂周圍輪を形成するもの。
4. 邊緣輪及び核周圍輪を形成するもの。
5. ニッスル氏物質が胞體内に不規則形の集塊を作りて一面に分布するもの。

以上の中最も多きは2型次いで1型なり。本細胞の原形質内に、時に鐵ヘマトキシリンに濃染し、ヘマトキシリン・エオジン染色ではエオジンに好染する小體が認められる。かゝる小體は細胞周邊部に、或は核膜に近接して存在す。本神經細胞に於ては、又屢々核小體が原形質内に脱出する所見あり。即核小體が原形質内に脱出する所見あり。即核小體が核膜上に來たり、其の一部は既に原形質内へ移行せるを見る。かゝる場合屢々核小體が核膜に沿つて擴り、該部に於て核膜は核小體物質によつて浸潤されたるが如き觀を呈す。核小體がエオジンに好染する事實より考へ、上記の原形質内に認めらるゝ好エオジン性小體は、恐らく原形質内へ脱出せる核小體なるべし。本小體の運命は不明なり。

質 問

本 多 喜 美

1. 健康なる刑屍の説明を願ひます。
2. 固定液に就て御尋ね致します。

答

圓 乘 幸

1. 材料は刑屍後直ちに採取せり。
2. 固定液としては「フォルモール」「フォルモール・アルコール」「レビー氏液」「ルゴー氏液」「ツエンケル・フォルモール」等を用ひたり。

18. 人辜丸間質組織の細胞學的組織學的研究

慶應義塾大學醫學部解剖學教室

久 保 田 くら

辜丸に於ける間質結締織は辜丸の榮養及び機能運營に重要なは論を待たずと雖も、彼の間細胞を除きては特に人辜丸に於て形態學的研究少し。予は極めて新鮮健常なる成人辜丸に就て如上の研究を進めつゝあるも、今日迄に得たる成績は次の如し。

- 1) 人辜丸間質組織は纖維成分に乏しき、極めて多液性柔軟なる鬆粗結締織にして、脂肪細胞を含まず。細精管の固有膜とは明瞭なる境界を有す。
- 2) 間質組織の基構をなすは、纖維細胞の網工にして、本細胞は球形核小體を含む比較的小なる、橢圓乃至紡錘形の核を1個乃至2個有し、少量なる原形質は輪廓明瞭にして平滑、空胞、可染顆粒、脂肪小滴、雙中心小體、絲粒體等を含む。細胞體より長き纖維性の分岐する突起を出し、突起は結合して、網工を形成す。細精管固有膜の纖維細胞とは甚だしく相異なる細胞なるも、兩者の間に移行型あり。
- 3) 網工の網眼を充たすは、半液狀膠様の微細顆粒性物質にして、エオジン、アエリン青等にて軽度に染色されるも粘液反應なし。
- 4) 網工と密接なる關係を保ちて少量の極めて繊細なる原纖維束を認む。その量は部位によつて相異す、又個々の間細胞及びその群を包みて同様なる纖維あり。弾力纖維は細精管固有膜血管壁には存在するも、間質組織内には認められず。
- 5) 網眼内には、更に間細胞、少數の組織球、組織肥胖細胞、小淋巴球等あり。一般に最も大なる間細胞は多様な形態を備へ、屢々原形質性突起を出して結合しジンチチウムを形成す。組織球は屢々長く伸びたる形態を示し、暗調なる原形質は空胞、可染顆粒、脂肪小滴、小桿狀絲粒體等を含み、散在性に分布し、位置は不定なり。肥胖細胞も亦多様な形態を示し、二核性のものあり。散在性に不定部位に出現す。淋巴球も少數なり。
- 6) 以上の所見より見るに人辜丸間質組織は特殊なる鬆粗結締織にして、纖維細胞の網工形成著明にして脂肪細胞を含まず多液性柔軟なる點は胎生結締織に最も類似す。